

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
451	川崎市立川崎高等学校(定時制課程)	岩木 正志

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>学校教育目標 「こころ豊かな人になろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の良さを伸ばし、将来の夢を見つめて、自分探しに取り組もう</li> <li>○ 自ら知識を求め、追究する過程を大切に、新たな課題に取り組もう</li> <li>○ 他を認め、思いやる心をつちかい、人類共通の課題に取り組もう</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導・生活指導・進路指導・キャリア教育の一体化による生徒それぞれの自己実現を促す</li> <li>2. 安全・快適な教育環境の整備</li> <li>3. 適正かつ効率的な学校事務の遂行</li> <li>4. 教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの高い志を追及し、その実現のためにひたむきな努力を継続できる生徒を育成し、基礎・基本の定着とともに確かな学力と豊かな心を育む。</li> <li>・「市川らしさ＝木目の細かい指導」「急がない・手を抜かない・あきらめない」指導を実践し、生徒一人ひとりの良さを伸ばし、可能性を引き出す教育活動を展開する。</li> <li>・ 二部制定時制から昼間部定時制への変容に応じて、一層の多様な学びのスタイルや教育課題に応じられるよう、改善に向けた検討を進める。</li> <li>・外国につながるの生徒、特別な支援を要する生徒など、定時制に通う生徒の支援に関する校内体制の充実及び実践に努める。</li> <li>・感染防止のための教育環境衛生の保全に努める。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導	<p>○学習習慣の確立と基礎・基本の徹底、主体的な学びを促す学習指導を展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の良さを伸ばし、潜在的な能力・可能性を積極的に引き出すための授業改善に取り組む。</li> <li>・「生徒に適切な学習目標を設定させる授業」「ICT等を活用したわかりやすい授業」「思考力・表現力を高める授業」「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を実践する。</li> <li>・学び方や学習方法の指導など学習ガイダンスを徹底し、自学自習の習慣を身に付けることを通して、進路目標の到達、自己実現を支援する。</li> <li>・生徒一人ひとりの進路目標(自己実現)の達成に向け、基礎・基本の定着と進路目標到達への課題に対応する力を育成するよう、個々の実態と教育的ニーズに応じたきめ細かな学習指導、学習支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高校入学前の学習内容の復習に始まり、高校の学習内容へと段階的に指導を行い、生徒が授業を通して達成感を得て、意欲的に学習に取り組めるように努めた。生徒の学習到達度が幅広く、さらに個に応じた指導が求められる。</li> <li>◆多くの職員がワークシートや板書の工夫をし、ICTを活用しながら、様々な活動を授業の中に組み込み、生徒の理解力と集中力を高めた。</li> <li>◆全学年にわたってホームルームを少人数のクラス編成にし、さらに、英語科は1年次、数学科では1、2年次少人数授業を展開し、国語科においても1年次チームティーチングを取り入れ、可能な限り個に応じた指導を心がけ、基礎・基本の学習が充実するように努めた。</li> <li>◆特別な支援を要する生徒については、関係する職員や特別支援・教育活動サポーターらと連携を図りながら対応した。</li> <li>◆日本語を母語としない生徒が複数在籍しているため、日本語指導非常勤講師を配置していただき、学校生活や日常生活をはじめ、高校卒業後の生活も円滑に過ごせるように支援した。</li> <li>◆令和4年度より全校生徒分のPCが学校に供与されたが、学習指導等での活用方法が各指導者任せになっており、有効活用の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇新学習指導要領の年次進行に伴う本校の教育課程表、特に学校設定科目や選択科目を見つめなおし、今後、本校生徒が履修すべき科目について検討を継続する。</li> <li>◇教職員が生徒を理解し、授業力を磨くために、校内で相互に授業を観察しあう期間を設定する。特に、ICTの活用や言語活動をはじめ、模範的な指導をしている職員の授業を紹介し、お互いに参考できるようにする。</li> <li>◇支援を要する生徒の指導に適切に取り組めるよう、生徒支援委員会やケース会議の定例化を図る。関係職員と生徒の情報を共有化しながら、ケースによっては外部機関と連携し、生徒の発達段階に応じた指導に努める。</li> <li>◇引き続き、日本語を母語としない生徒への日本語指導を日本語指導講師と協力しながら進めていく。新入生については、速やかに実態をつかみ対応に努めたい。</li> <li>◇今年度より入学してきた日本語を母語としない生徒に向けた、「日本語」の授業を組み入れた教育課程や取り出し授業の実施、先行実施校への視察、職員研修など行い受け入れ態勢の構築を進めた。</li> <li>◇ICTの利用が得意な教員の授業を参観したり校内研修を通して活用能力の向上を図る。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
2 生活指導	<p>○特別活動の活性化、望ましい集団活動を通して、学校生活の充実・向上を図る指導を展開する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の精神を培うとともに、人間的な心の触れ合いや感動体験活動等を通じ、学ぶ者同士の連帯意識や所属意識を醸成する</li> <li>・日常的な指導や学校行事・ロングホームルーム・部活動等を通じ、生徒が適切な規範意識を持ち基本的な生活習慣・学習習慣を確立できるようにするとともに、幅広い社会性や友愛の精神と豊かな人間性を養う。</li> </ul> <p>○基本的な生活習慣、自律的規範意識、心身の健康の保持による生活規律の確立を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律やマナーの徹底、心身の健康管理等を通して、学力の基礎となる健全な生活習慣の確立を図る。</li> <li>・手洗い、手指消毒、マスクの着用、施設使用後の消毒などの取組を徹底することで、新型コロナウイルス感染症防止に努めるとともに、生徒の心身の健康状態を丁寧に見取り、安全な学習を確保する。</li> </ul> <p>○生徒一人ひとりの背景や特性を理解し、適切な配慮による安心した学校生活に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身では解消できない課題に丁寧に寄り添い、関係機関とも連携しながら組織的な検討、対応を図り、健全な自己形成と学習活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒が安心して学校生活を送れるように、多くの教職員が年間を通じて始業前や放課後、休憩時に生徒に寄り添い、見守る時間を確保した。</li> <li>◆生徒の小さな変化を見逃さないように努め、課題がある生徒とは迅速に面談を実施し、ケースに応じて保護者と情報を共有し生徒指導に当たった。</li> <li>◆学級や生徒会活動、部活動を通して、生徒が自主的に活動できる場を整え、生徒同士が響き合い、社会性を身につけられるように創意工夫を重ねた。</li> <li>◆自転車事故防止のために交通安全指導講習会を開催し、交通ルールを遵守し相互の命と生活を守り合うことの重要性を指導した。</li> <li>◆保健講演会(「睡眠について」)、薬物講演会、性教育講演会を実施し、生徒の自尊感情を高め、命の大切さを理解する機会を設けた。</li> <li>◆職員による「心肺蘇生法研修」や「教育相談研修」を実施し、生徒指導力の向上や万が一の場面にもスムーズに対応できるように訓練した。</li> <li>◆スクールカウンセラーや外部機関と連携し、支援が必要な生徒との個別相談を重ね、課題の解決に取り組んだ。カウンセラーとの相談を希望する生徒が多く、生徒のニーズに応えきれない面があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇引き続き、高校生の今日的課題に即した保健講演会や交通安全講習会を開催する。薬物や性教育のほかに、SNSやいじめに関する講演会の実施について検討する。</li> <li>◇生徒が安心安全の中で過ごすように、教職員が身近な立ち位置で生徒を見守れる態勢を各学年団や分掌の視点から整える。</li> <li>◇生徒の居場所作りと自立支援のために行われてきた外部団体との連携事業を継続し、より実効性のあるものへと展開する。</li> <li>◇スクールカウンセラーとの面談希望生徒が増加傾向にあることから、少しでも多くの生徒が面談機会を持てるように校内で工夫し、また、外部機関と協力しながら改善策の検討をする。</li> <li>◇教職員を対象に、人権、多文化共生、特別支援教育、SNSなど、今日的な生徒指導上の課題をトピックとした研修会を開催する。</li> </ul>
3 進路指導 ・ キャリア教育	<p>○計画的・組織的な進路指導を推進し、生徒一人一人の実態とニーズに応じた指導を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス、進路講演会、職業体験等の進路啓発行事を最適学年で計画・実施し、一層の内容充実を図り進路意識・職業意識を高める。</li> <li>・教育活動全体を通じて自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する教育を充実させ、自己有用感とともに高い志や夢を育み、社会的な自立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆年次に応じたキャリア教育プログラムを実施し、生徒が自分自身を見つめ、職業観を養い、人生設計について考察する機会を設けた。</li> <li>◆卒業後の進路で就職を希望している3年生生徒を対象にインターンシップ事業を3年ぶりに実施することが出来た。</li> <li>◆外部機関と連携しながら、生徒の自立に欠かせないコミュニケーションスキルやソーシャルスキルに関わるワークショップを継続的に実施した。</li> <li>◆外部団体の協力のもと、校内の施設を利用し、放課後や登校前の生徒の居場所を作り、学習や自立支援を継続した。</li> <li>◆様々な背景をもつ生徒が存在する中、進路指導やキャリア教育に関わる全てのプログラムが全生徒のニーズに合致するわけではないので、今後、集団指導とともに、より個にも焦点を合わせたプログラム内容を検討する必要がある。</li> <li>◆生徒支援委員会が中心となってケース会議を定期的に行い、支援を必要とする生徒について学級担任・特別支援コーディネーター・養護教諭・生徒部等で情報を共有すると共に支援内容を検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇通常の指導では就労が困難な生徒について、1年次より支援を必要とする生徒の発見に努め、中長期的な視点を持って必要な支援・指導を計画的に進めていく。</li> <li>◇教職員の資質向上に向けて、高等学校における今日的な課題を主題とした教職員研修を複数回実施する。</li> <li>◇インターネット上から情報を収集することが多くなったことを踏まえ、学校ホームページの内容、更新時期、頻度を改善する。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
4 教育環境整備	<p>○本校の特色・魅力を具現化する教育課程を編成・実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学習指導要領に応じた教育課程や授業内容の工夫と改善に努める。</li> <li>・特に、外国につながるのがある生徒の自己実現を目指した特色ある教育課程の研究および実践に取り組む。</li> </ul> <p>○各教室や体育施設の円滑な運用に向けて、組織的・計画的な取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制、全日制、附属中学校の教科の授業、学校行事、生徒会行事等について施設使用の調整し、活動内容の一層の充実を図る。</li> </ul> <p>○清掃活動や校内美化活動により、自ら学習環境を整える態度、社会性や公共心を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高校入学以前の学習内容の定着が不十分な生徒や日本語を母語としない生徒が多数在籍する実態に応じて、基礎基本の徹底をベースにした学習指導のあり方や本校の特色である少人数授業の拡充について検討を継続していく。今後も学習指導内容や方法について議論を重ねる必要がある。</li> <li>◆施設を共用する附属中学校・高等学校全日制とほぼ毎日連絡を取り合い、各種教室や体育設備の使用の調整に努めたが、一部施設使用が重なるところがあり課題が残った。</li> <li>◆二部制定時制から昼間部定時制に変容していく移行期の最終年度にあたり、学校生活環境を全日制や附属中学校とも協議しながら整えていく必要があった。</li> <li>◆ホームルームにおいて、担任教職員がそれぞれの学級経営方針に基づいて、生徒が過ごしやすい環境整備を心がけた。</li> </ul>	<p>◇新学習指導要領の実施2年目にあたり、本校生徒の実状にあった教育課程を策定した。次年度以降も生徒の実情合っているか確認を継続し、常に最適な教育課程の編成を行う必要がある。</p> <p>◇引き続き、施設を共用する附属中学校、高等学校全日制と綿密に連携し、互いの教育活動に支障を及ぼさないよう配慮するとともに、連携による相乗的な教育効果についても積極的に検討していく。</p> <p>◇在籍生徒数に応じた、適切な教室配置を柔軟に検討する。</p> <p>◇昼間部の募集定員が二部制で募集していた頃に比して2倍となり、学年全体で一斉展開していた授業が二展開せざるを得ない状況が起きた。学校施設の使用について全日制や附属中学校と今後の推移を見極め協議を行っていく。</p> <p>◇ホームルームや生徒会活動を通じて、生徒自ら校内美化に取り組めるように指導をする。</p>
5 学校事務	<p>○公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体を見据え、管理職、教職員等との連携・協調と情報の共有化を図りながら、学校財務の効率的な運用を図り、教育効果の向上および適正な教育条件の整備に努める。</li> </ul> <p>○校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。</p> <p>○教職員の福利厚生等に関する事務の適正処理を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆校内の各組織の代表者からなる予算委員会で今年度予算を執行すべきものの優先順位を検討し、適切な予算執行を心がけた。</li> <li>◆用紙を含めた印刷費の経費割合が年々大きくなってきていることから、職場として節約意識を持つように取り組んだ。</li> <li>◆就学支援金、奨学給付金に係る諸手続きを担当事務職員が精力的に行い、生徒が経済的に安心して学校生活を送れるように支援をした。</li> <li>◆諸経費納入方法については、金融機関とのデータの送受信の方法が令和3年度より変更されたことにより、担当者の業務負担が増大した。また、出納業務がICTに明るい教職員の負担になっており、改善の検討をする必要がある。</li> <li>◆担当事務職員と教職員が協力して、公費で購入した備品を台帳と照らし合わせ適切に管理した。</li> </ul>	<p>◇学校運営費については、教職員の共通認識のもと、適切な予算編成と効率的な執行に努める。</p> <p>◇引き続き、印刷費の節減に努めるなど、職場における節約意識を高め、公費が有効に利用されるよう取り組む。</p> <p>◇諸経費納入、就学支援金、奨学給付金の事務処理については、引き続き事務職員と教職員の連携を密にし、迅速かつ円滑に執り行われるよう取り組む。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
6 学校組織	<p>○公開授業や研修会などを通して、指導力を高める授業改善の取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等において、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために有効な手立てとなる、言語活動の充実を図る取組を進める。</li> <li>・各教科・科目の特性に応じた適切な学習形態のあり方を研究、実践するとともに、生徒の実態や思いを的確に捉え、さらなる指導方法の工夫改善につなげる。</li> </ul> <p>○学年・校務分掌等の業務の確立と課題の整理を行い、一層の円滑化を図る取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務運営の理念や性質を改めて整理する等、常に改善の視点を持って業務にあたり、これまでに蓄積された資料や指導技術が一層、有機的に活用されるよう分掌の在り方を整理する。</li> </ul> <p>○校内コミュニケーションを通じた相互協力や連携に基づく協働体制の確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が一致協力して計画的で継続的な教育活動を展開し、円滑な校務運営にあたる。</li> <li>・生徒、保護者、地域から信頼される学校となるよう、教職員の資質向上を図り、生徒が生き生きと学べる教育を推進する。また、学校情報を積極的に発信する開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>・教育公務員としてその職責の重さを自覚し、言動が生徒の範となるように、不断の自己研鑽及び研修に努め、学校全体の教育力を高める。</li> </ul>	<p>◆今年度、校務分掌の組織改編を行い、キャリアガイダンス部の廃止と生徒支援部及び進路指導部を創設した。そのことに伴い、今までキャリアガイダンス部が担当していた業務を他の分掌に移管するとともに、外国につながる生徒及び特別な支援を要する生徒への教育と支援を組織的に行えるようになった。</p> <p>◆生徒指導を中心とした生徒部とカウンセリング業務を担う保健部を統合し、養護教諭と一般教諭との間で問題を抱える生徒の情報共有等がし易くなり効果があった。</p> <p>◆各分掌や学年団の代表者からなる校務運営委員会を毎週開催し、校務に関わる迅速な意思決定や円滑な校務運営がなされるようになった。</p> <p>◆分掌の各種業務が個の経験や責任に依る傾向があるので、それらが分掌の業務の一つとして確実に位置づけられるように、今後運営のマニュアル化や引継ぎ資料の作成が必要である。</p> <p>◆学校ホームページの更新方法がCMS(コンテンツマネジメントシステム)に移行し、更新が随時可能となった。また、それに伴い内容も市で統一したものとなった。</p>	<p>◇各分掌と学年団の代表者からなる校務運営委員会をより機能させ、各種課題に精力的に取り組み、より良い学校づくりを目指す。</p> <p>◇分掌の人数配置を再考するため次年度は各分掌の業務を洗い出して、組織改編を進めていく。</p> <p>◇教職員の資質向上に向けて、高等学校における今日的な課題を主題とした教職員研修を複数回実施する。</p> <p>◇インターネット上から情報を収集することが多くなったことを踏まえ、学校ホームページの内容、更新時期、頻度を改善する。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>先生方の指導のおかげで、中学校の時より少しずつだが勉強するようになってきた。授業も丁寧に分かりやすいと感じている。</p> <p>先生方からよく連絡をしてくださるので、安心してます。一人ひとりのことをよく考えてくれている。</p> <p>雨天時に傘をさしながら自転車で登下校をする生徒が見かけるので、合羽の着用や公共交通機関の利用を勧めるなど、粘り強く継続的に指導してほしい。</p>	<p>・学校評価をはじめ、各学年や分掌からの年間反省を通して、本校の教育活動を具体的に振り返ることができた。今年度の反省を生かし、次年度に向けて重点目標を掲げてより一層の改善に取り組みたい。</p> <p>・生徒一人ひとりが必要とする指導や支援を丁寧に見取りながら、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組めるように授業改善を進めていく。</p> <p>また、教育活動の積極的な広報も行い、家庭と一体となった学びの環境づくりを進めていきたい。</p> <p>・生徒の進路希望に応じながら、家庭とも連携を図り、卒業後の進路実現に向けた職業意識と生きる力を身に付けられるよう、今後も生徒の視点に立ったキャリア教育を推進する。</p> <p>・外国につながる生徒の受け入れ態勢の一層の充実と特別な支援を要する生徒への支援体制の確立及び卒業後の生活と進路を視野に入れた指導の充実を図る。</p>